



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

ポスのコロナにおける糖尿病療養指導士

〔当法人業務執行理事〕

東京医科大学八王子医療センター
松下 隆哉 [医師]

新型コロナウイルス感染症の流行により、慢性疾患の診療が困難になり、医療現場は大きな混乱をきたしました。新型コロナウイルス感染症は一段落し、健康診断を受ける方も減少したため、糖尿病の診断遅延や合併症の進行が危惧されます。糖尿病は、長期的な自己管理が必要な慢性疾患であり、治療において患者本人の自己管理が不可欠です。そのため、医師だけでなく糖尿病療養指導士の存在が重要となります。新型コロナウイルス感染症の流行期間中も、糖尿病の持続血糖モニターや薬物療法の進歩はあったものの、その情報が患者に伝わらないケースもあったでしょう。患者自身で血糖値を測定し、食事や運動、薬物治療などの自己管理を行うための指導や支援を行うことができる糖尿病療養指導士の重要性が再認識されると思われます。

医療現場では、医師や看護師といった他の医療スタッフと協力して、患者の糖尿病に対するトータルなケアを提供することが求められます。そのためには、糖尿病療養指導士が患者の自己管理や生活習慣のアドバイスをを行い、医師や看護師と共に患者の糖尿病治療に取り組むことが不可欠です。さらに、糖尿病療養指導士は、患者さんたちにとって安心感や希望を与える存在でもあります。糖尿病は、治療や自己管理が難しく、患者さんたちにとっては不安やストレスが付きまとう病気です。糖尿病療養指導士が患者さんたちと共に取り組んでいくことが望まれます。

糖尿病療養指導士は、医師や看護師と協力し、患者さんたちに必要なサポートを提供することで、糖尿病治療における重要な存在となっています。今後も糖尿病治療に必要な不可欠な存在として、専門性の向上や情報収集、地域との連携などを行い、患者さんたちがより良い生活を送れるよう支援していくことが求められます。また、糖尿病は、生活習慣病の一つであり、日々の食生活や運動習慣など、自己管理によって予防が可能な疾患でもあります。糖尿病療養指導士は、糖尿病の予防や早期発見、治療に限らず、健康教育やライフスタイルアドバイスなどの健康増進にも取り組むことができます。地域の医療機関や自治体、企業などと連携し、健康増進の取り組みを行うことで、より広い範囲での健康づくりに貢献することができます。

今後も、糖尿病療養指導士は、糖尿病治療の現場で必要不可欠な存在として、患者さんたちが安心して治療に取り組めるよう支援していくことが求められます。糖尿病治療の進歩や社会の変化に合わせて、糖尿病療養指導士の役割も変化していくでしょう。そのためにも、自己啓発を続け、専門性を高め、柔軟な対応力を持って、患者さんたちのニーズに答えていくことが重要ですし、皆様方が活躍しやすいような場を再度、構築していきたいと考えています。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

68歳、男性。罹患歴15年の2型糖尿病。身長 168cm、体重 75kg。メトホルミンとDPP-4阻害薬を内服中。最近1年間で5kgの体重増加があり、HbA1c 8%が続いている。主治医から食事療法について再指導の依頼あり、療養指導を実施。一通り面談を終えたところで、患者から以下のような発言があった。

「よくわかりました。コロナになってから家にいる時間が多くなって、つついお菓子や果物を食べるようになってしまったんだよね。自分のためなんだから、しっかりしなくちゃね。でもさ、本当に厄介な病気だよな、糖尿病ってのは……」

患者の心理に寄り添うための療養指導士の応答として誤っているのはどれか、2つ選べ。

1. 「そんなことないですよ。頑張れば頑張った分、よくなる病気じゃないですか」
2. 「『厄介な病気』というと？」
3. 「わかります。皆さんそうおっしゃいますよ」
4. 「もう少し詳しく聞いてもいいですか？」
5. 沈黙して患者の言葉待つ



報告

西東京CSII普及啓発プロジェクト 第23回研修会

日時:令和4年12月6日(火)
立川相互病院

【当法人評議員】 大和調剤センター 森 貴幸 [薬剤師]

令和4年12月6日(火)に久しぶりに会場で参加者を迎えて西東京CSII普及啓発プロジェクト第23回研修会を行ったのでご報告いたします。『本邦におけるパッチポンプとCGM～ハンズオンセミナーとポンプ導入症例紹介』というメインテーマで、今回テルモ株式会社から発売されている『MEDHISAFE WITH』と『Dexcom G6 CGMシステム』について情報提供並びに実際の機種に触れてみるもので開催いたしました。

製品紹介としてテルモ株式会社の山之内 信介先生から『MEDHISAFE WITH』の開発コンセプトや実際に使われている施設での状況を報告していただきました。『MEDHISAFE WITH』は女性の方が男性に比べ使われている理由の一つとしてチューブレスのパッチポンプのため服装の制限を受けにくいところにあると思われます。使用年齢層は「イージーパッチ」が大きいため、接地面を十分に取りにくい10歳未満での使用は少なくなっていました。

ハンズオンセミナーはテルモ株式会社の高木 真里先生に『Dexcom G6 CGMシステム』について製品の特長、『Freestyle リブレ(isCGM)』と『血糖自己測定(SMBG)』、『Dexcom G6 (rtCGM)』の違いを教えてくださいました。CGMはSMBGに比べ連続的にグルコース値を見ることが簡便にできるため、これからの糖尿病治療における役割が大きくなっていくと思われまます。実際に手に触れてみる研修会であったことは参加者にとって、とても臨場感があり良い研修会になったと思います。

症例報告として加藤内科クリニックの加藤 則子先生よりDexcom G6 導入事例とクリニックみらい立川の菅原加奈美先生よりMEDHISAFE WITH導入例をご発表いただきました。機器の選択理由などを教えていただき患者さんの導入までの思いや導入後の様子などを知ることができ、他の患者さんにも導入する際の情報としてとても有意義でした。次回本年6月頃に第24回を開催する予定です。多くの先生方に参加していただけると幸いです。

報告

第9回 西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス

日時:令和5年1月12日(木)
オンライン

令和5年1月12日(木)Web配信にて『第9回 西多摩・南多摩糖尿病カンファレンス』が当番世話人の多摩センタークリニックみらい 院長 藤井 仁美先生および仁愛医院 院長 吉村 中行先生のご挨拶により開催されました。

特別講演は、多摩センタークリニックみらい 院長 藤井 仁美先生のご司会で、千葉大学医学部付属病院 病院長 横手 幸太郎先生より『動脈硬化性疾患予防ガイドライン2022のポイントと糖尿病診療への活かし方』と題しご講演いただきました。動脈硬化性疾患予防ガイドラインは5年ぶりに改訂され、2007年版よりタイトルが診療から予防に変更され、新たに予防へ焦点を当てて作成されております。

そのような中で、横手先生より、この度の動脈硬化性疾患予防ガイドライン2020のポイントとして、一次予防すなわち高リスク病態や他疾患の有無を見極めることが重要であるとお話がありました。また、糖尿病がある場合のLDLコレステロールの管理目標値にも言及され、二次予防に関する内容もご講演くださいました。横手先生はガイドラインの作成委員会のメンバーであり、非常に興味深いご講演でございました。

パネルディスカッションは、『糖尿病合併循環器疾患』をテーマに、仁愛医院 院長 吉村 中行先生のご司会

で、日本医科大学多摩永山病院 循環器内科 准教授・部長 小谷 英太郎先生および東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 講師 松下 隆哉先生より勤務医の立場からパネリストを務めていただきました。多くの先生方に活発なご意見・ご質問をいただき、大いに盛り上がりしました。

最後に、本会の代表世話人である東京医科大学八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 兼任准教授 大野 敦先生よりご挨拶をいただき閉会いたしました。

Webでの開催となりましたが49名の方々に視聴いただき大変有意義な会となりました。





第26回日本病態栄養学会年次学術集会

令和5年1月13日(金)～15日(日)

国立京都国際会館

[当法人会員]

東京医科大学八王子医療センター
古畑 英吾 [管理栄養士]

第26回日本病態栄養学会年次学術集会は、令和5年1月13日(金)～15日(日)の3日間、国立京都国際会館で開催されました。第24・25回の共同開催時から始まっている現地開催とオンデマンドのハイブリッドの形式で今回も開催されました。本来であれば現地で参加したいところではありましたが、今回はオンデマンドにて参加しました。

テーマは「病態栄養学発展をめざして～おいしく、楽しく、健やかに～」とされていました。特に昨今の栄養管理については医師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士をはじめ、多種のメディカルスタッフが連携して患者さんに関わっており、患者さんの多様なニーズに対応するためにも、各職種の専門性を磨くことが質の高い栄養管理の担保になるとされています。いくつかのシンポジウムや症例検討セッションは、病態栄養専門医、病態栄養専門管理栄養士、NSTコーディネーター、がん・糖尿病・腎臓病の病態栄養専門管理栄養士、専門病態栄養看護師など個人資格に対する指定講習として認定されていました。さらに肝臓病病態栄養認定専門管理栄養士制度の発足に向けたセッションもありました。

糖尿病専門管理栄養士の指定講習でもある、症例検討セッションでは「1型糖尿病の血糖マネージメントに難渋した症例」と「肥満を伴う糖尿病性腎症」の2つがテーマとされており、参加者を巻き込んでの劇場型ディスカッション形式となっていました。医療スタッフと患者役のやり取りについてはオンデマンドでは見ることができなかったため、現地で見えたかと思えるセッションでした。内容としては1型糖尿病の症例では、生活環境の変化に流されやすく、問題点の移り変わりがあり、その節目で多職種からの多角的なアプローチと患者さんの想いを受け止めることで、患者さんを医療につなぎとめていたことで成果を得られたような症例であり、療養指導の在り方を考えさせてくれる症例でした。2例目の肥満を伴う糖尿病性腎症の症例では、病期の移り変わりでのエネルギー設定の部分が注目されていました。日本腎臓学会では標準体重での設定となっていますが、糖尿病学会では目標体重が用いられています。米国糖尿病学会の診療ガイドラインでは肥満患者では5%の体重減少が推奨されていることなども参考に、今回は目標体重を採用し、エネルギーの設定がされていました。特に段階的な措置の重要性を推していました。必要以上にエネルギーの設定が低くされることも問題点としてあげられていました。エネルギーの不足は高齢者であれば筋量低下の問題につながってしまいます。また、腎機能が低下している際にはむくみがあることもあり、基準とする体重の評価に体水分量の評価も考慮に入れる必要があるとのことでした。

また、腎不全の食事コントロールとなると、カリウム摂取の制限とイメージがされやすいですが、心不全患者での検討ではあるのですが、カリウムが4mEq/L未満の場合、全死亡率が上がるという報告があり、画一的にカリウム制限をすることは良くないとされていました。2つの症例を通して現在の見解を再確認することができました。

専門性が求められる中で、新しい情報を得る事が視野を広げることを改めて感じました。今学会の経験を日々の業務に生かしていきたいと思えます。



読んで
単位を
獲得しよう

答え 1, 3 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

療養行動を始められない・継続できない場合には、「なぜ患者はしようとならないのか」「患者はどうしていききたいのか」をゆっくりと話を聴き、医療者と共に今後の療養の方向性を一緒に考える時間を設ける。患者がどうありたいのかという思いを知ること、思いに近づくことが大切であり、医療者と語り合うこと自体が重要であるため、患者の思いを表出できるような投げかけが必要である。1は励まし、3は共感をしているが、患者の話や思いを聴くという姿勢ではないため、誤った解答となる。



研究会等のセミナー・イベント情報

主催事業
 共催・後援事業
 その他

メディカルスタッフWebセミナー in Tokyo 2023

申込必要

開催日：2023年4月6日（木）19:00～20:40

参加方法：Zoomにて開催いたします

申込：セミナープログラムに掲載のURLよりお申し込みください（4/5締切）

問合せ：サノフィ㈱（担当：菅谷） TEL:0120-852-297

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：2単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<看護1群>：0.5単位申請中 他

参加費
無料

オン
ライン

2023年度 西東京糖尿病療養指導プログラム(CDEJ1群)

申込必要

第19回 西東京教育看護研修会

第7回 西東京臨床検査研修会

第19回 西東京病態栄養研修会

第7回 西東京運動療法研修会

第19回 西東京薬剤研修会

開催日：2023年7月9日（日）9:25～16:30

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：早割[申込開始～5/14] 6,000円 / 通常[5/15～6/30] 7,000円

申込：当法人ホームページの「重要なお知らせ」または「新着情報」の

「2023年度 西東京糖尿病療養指導プログラムのお申し込みはこちらから」よりお申し込みください。（6/30締切）

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第1群>：申請中 他

オン
ライン

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付しております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話ください。よろしくお願いいたします。

お悩み解決 《マイページ Q&A》

Q.これまでに取得したLCDEの単位数の確認はできますか？

A.マイページの一番下の「LCDE情報」の「単位取得状況確認」より、確認ができます。これまでに参加したセミナー名、付与単位数、取得期限などが記載されておりますので、ご活用ください。



これまでに参加したセミナー

開催日程/セミナー名	付与単位数
2016/12/31 H28年度会報随時単位	2 単位
2016/02/19 H27年度会報随時単位	2 単位
2016/06/11 NPO法人西東京臨床糖尿病研究会 第59回例会	7 単位
2016/07/03 第13回西東京糖尿病学集研会【平成28年度 西東京糖尿病療養指導プログラム】	10 単位
2015/03/02 H26年度会報随時単位	2 単位
合計単位数	23 単位
	LCDE更新まで、残り 27 単位

最終更新：2019年03月31日

発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
 〒185-0012
 国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
 TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
 https://www.cad-net.jp/
 Email:w_tokyo_dm_net@crest.ocn.ne.jp

編集後記



今年は桜の開花予想が全国的に例年より早く、関東エリアはもう葉桜でしょうか。花見ができなかった方は、東北、北海道地方に足を運んでみるのも良いかもしれません。今月は西東京糖尿病療養指導士の認定式があり、私も会場に足を運ぶ予定なので、皆様の晴々しい姿を見られることが待たしいです。また、地域での糖尿病療養指導に携わる仲間として共に切磋琢磨できればと思います。（広報委員 長谷部 翼）